

＜大学院のカリキュラムポリシー＞

＜人間学研究科博士前期課程＞

博士前期課程のカリキュラム編成は、履修モデルとして仏教文化分野・人間福祉分野・臨床心理分野を設定し、各分野に応じた科目を履修できるように編成しています。いのちと向きあい、その意味を問い実践する「仏教文化」、人と環境の接点に介入し、暮らしを支える「人間福祉」、人の心や行動を科学的に理解する「臨床心理」の3分野が、それぞれの専門性を高めつつ、学際的協働・連携を深め、心豊かな「人間」性を持つ高度な専門職・研究者の養成に取り組めるようなカリキュラムを構成しています。

1. 「研究指導科目」では、特殊演習で個々の研究分野について研究と論文作成の指導を在学期間継続して、原則として修了まで同一教員のもとで受けることとして、論文作成を重視しています。
2. 「研究基盤科目」では、建学の理念である仏教精神に基づいて、個々の研究活動の根底に共通する人間学を教授します。
3. 「隣接複合科目」では仏教文化分野、人間福祉分野、臨床心理分野の関連科目を多く開講し、研究領域の横断的な学習と幅広い応用発展を可能にします。
4. 学部の科目を自由に履修できるようにして、研究の基礎の再確認ができます。

＜人間学研究科博士後期課程＞

博士後期課程におけるカリキュラム編成は、前期課程において展開してきた仏教文化領域、臨床心理領域の研究をさらに高度化するため、前期課程との継続性と専門性を考慮しつつ、最近の当該専門分野における教育研究の動向や、社会的要請などを十分勘案して、絞り込んだ内容にしています。

具体的には、特殊演習において個々の研究を個別に指導します。また、学内外の学会等での研究発表を奨励し、全学生、全教員参加の論文発表のための指導の時間を設けています。

そのほか、課外で学生をT A・R A、仏教文化研究所の嘱託研究員に委嘱、また心理臨床センターの相談員に登録し、教育や研究リサーチの指導、実習を合わせて行います。